

水稻情報

(第3号)

令和2年5月27日
あおば農業協同組合
各地区農業技術者協議会

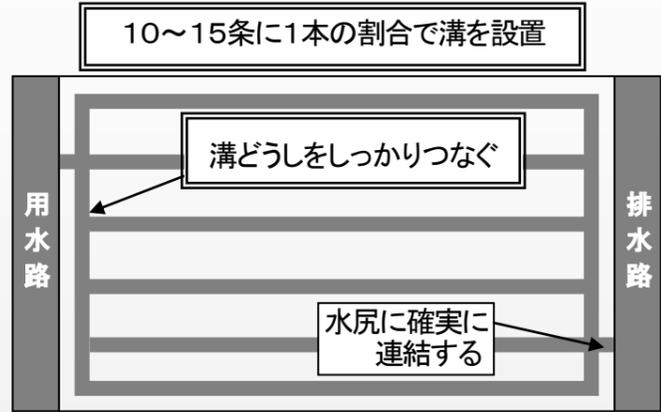
- * 6月上旬までに溝掘りを確実に実施し、中干しの効果を高めましょう。
- * 出穂期から20日間の湛水管理に備え、中干しの徹底で田面を固めましょう。

1. 溝掘り ~6月上旬までの溝掘りで、中干しの準備を!~

中干しや、その後の間断かん水を効果的に行うため、6月上旬までに必ず溝掘りを行いましょう。

<溝掘りのポイント>

- ・田植3週目頃から軽く田干しを行い、泥を落ち着かせる。
- ・溝の間隔は、3~5m(10~15条に1本)が目安。
- ・水口 ⇄ 溝 ⇄ 水尻は確実に連結する。
- ・水の切れにくいほ場では、設置本数を増やす。



溝掘り



6月1~10日
あおば農協管内
「一斉溝掘り期間」

中干し

充実した茎や
根の確保!!

2. 中干し 田植後1ヶ月までに中干しを始め、確実に田面を固めましょう!

6月に入ると、急激に分げつが増加するため、田植後1ヶ月までに遅れず中干しを開始しましょう。また、出穂期から20日間の湛水管理に備え、確実に田面を固めましょう。

① 田植日ごとの中干し開始時期の目安

田植日	中干し開始時期
5月10日	6月10日までに開始
5月15日	6月14日までに開始
5月20日	6月18日までに開始
5月25日	6月20日までに開始

中干しの効果

- ・無効分げつの抑制
- ・土中への酸素供給と根の活力アップ
- ・地耐力の向上



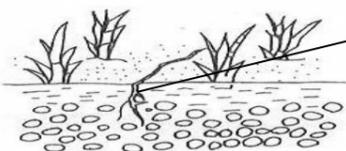
中干しの有無による根量の違い

② 中干しの程度

排水の悪いほ場では、事前に軽い田干しを行いましょう!

・水はけの良いほ場

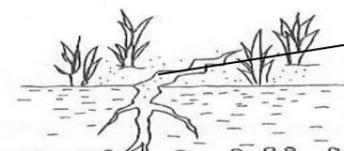
→ 長靴が沈まない程度の中干しで
期間は3~5日間程度が目安



田面に小さな亀裂

・水はけの悪いほ場や粘土質ほ場

→ 強めの中干しとして
期間は7日間程度が目安



田面に大きな亀裂

3. 中間追肥 耐倒伏性・登熟向上のため、積極的に施用しましよう!

◎エスアイ加里らくだ、PK けい酸の施用が困難な場合は「エスアイ加里カリ投げくん」をおすすめします。

肥料名	施用時期の目安	施用量
エスアイ加里らくだ	6月中旬~下旬	15kg/10a
PKけい酸(基肥一発体系のおすすめ)		20kg/10a
エスアイ加里カリ投げくん		4kg/10a (200g×20個)

珪酸の効果

- ① 根の活力を高める
- ② 茎葉を丈夫にし倒伏を防ぐ
- ③ 受光態勢を良くし登熟を高める
- ④ フェーン時に水分の蒸散を防ぐ

エスアイ加里カリ投げくん

◎パック肥料

- ・圃場に投げ込むだけですので重い動噴を担ぐ必要がありません。
- ・施用の際は、5cm以上湛水して、施用しましよう。

うら面に続く

4. 中期除草剤の散布

本格的な中干し前に中期除草剤の散布を！

○中期除草剤の散布

除草剤名	雑草の種類	使用時期	10a 当たり 散布量	使用上の注意点
ワイドショット 1キロ粒剤	ノビエ 広葉雑草	移植後15日～ ノビエ4葉期まで	1kg	・湛水状態で散布 (収穫45日前まで)
セカンドショットS ジャンボMX	ノビエ 広葉雑草	移植後14日～ ノビエ3.5葉期まで	500g (25g×20個)	・湛水状態で散布 (収穫45日前まで)
マメットSM 1キロ粒剤	ノビエ 広葉雑草	移植後15日～ ノビエ3.5葉期まで	1kg	・稲の5葉期以降に湛水状態で散布 ・15℃以下または30℃以上になると予想される場合は使用しない(収穫60日前まで)
レブラス 1キロ粒剤	ノビエ 広葉雑草	移植後14日～ ノビエ4葉期まで	1kg	・湛水状態で散布 (収穫60日前まで)

○雑草が多く残った場合に施用

除草剤名	雑草の種類	使用時期	10a 当たり 散布量	使用上の注意点
ヒエクリーン 豆つぶ250	ノビエ	移植後15日～ ノビエ4葉期まで	250g	・湛水状態で散布 (収穫45日前まで)
バサグラン粒剤	広葉雑草 (ホタルイ、オモダカ等)	移植後15～55日 (クログワイは15～35日)	3～4kg	・浅水～落水状態で散布し、3～4日間は 入水、落水をしない(収穫60日前まで)
クリンチャーバス ME液剤	ノビエ 広葉雑草	移植後15日～ ノビエ5葉期まで	1,000ml/10a (希釈水量70～100L)	・落水状態で散布し、3～4日間は入水、落 水をしない(収穫50日前まで)
トドメMF 1キロ粒剤	ノビエ	移植後14日～ ノビエ5葉期まで	1kg	・湛水状態で散布 (収穫50日前まで)
トドメMF乳剤	ノビエ	移植後14日～ ノビエ7葉期まで	200ml/10a (希釈水量100L)	・湛水または落水状態で散布 (収穫50日前まで)

※農薬の使用に際しては登録内容を確認し、草種に応じた除草剤を適期に散布しましょう。
詳細は各地区営農経済センターへお問い合わせください。

カメムシ対策 第3回

カメムシ発生予防について

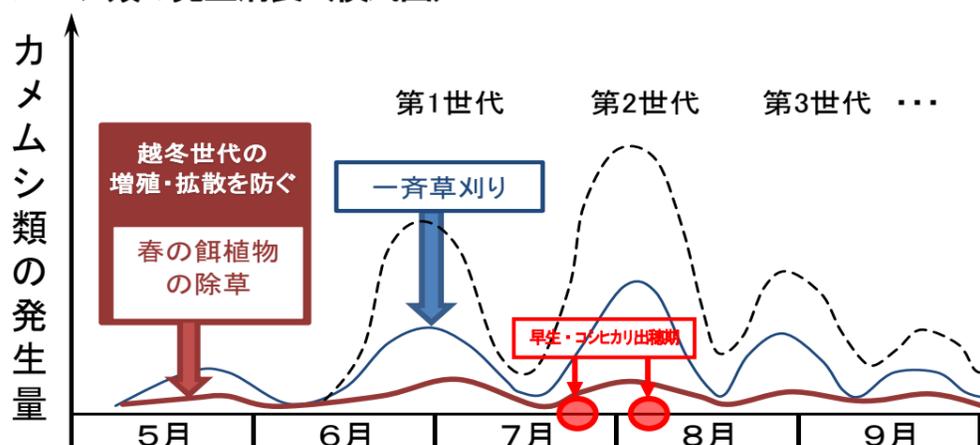
～発生・増殖源となる場所を優先して除草し、拡散を防ぐ！～

1. 春の畦畔等の除草管理でカメムシ類の発生密度を低減しよう！

- ・幼虫の餌となるイネ科雑草(スズメノカタビラやスズメノテッポウ等)が穂をつけないように草刈りを行う。
- ・または、畦畔等にバスタ液剤、ザクサ液剤等の茎葉処理除草剤を散布する。

除草方法	除草により期待される効果等
草刈り (穂が無いように)	・幼虫はイネ科雑草の葉だけでも発育できるが、穂が無いと幼虫の発育遅延や羽化率が低下する。 ・穂が無いと、成虫の飛来や産卵が抑えられる。
除草剤散布 (バスタ、ザクサ等)	・幼虫の餌となるイネ科雑草がなく、生存できない。 ・寄主植物がないため、成虫の飛来や産卵を防ぐ。 ※ 散布ノズルに飛散防止カバーを付け、風の無い時に散布。また、水稻等にかからないよう注意する。

2. カメムシ類の発生消長(模式図)



初期の発生量を小さくすることで、以後の発生量を抑えられる！